

環境報告書 2009

ごあいさつ

弊社は「テクノロジーとエコロジーの共存」をスローガンに環境に配慮した製品の開発、生産活動を推進しています。2001年にISO14001を全事業所で認証取得してからは、環境マネジメントシステムに基づき、汚染の予防、法令遵守、廃棄物の削減、及び省エネルギーなどの課題に計画的に取り組んでまいりました。

地球温暖化を初めとした昨今の環境問題への対応は、グローバル視点での環境負荷低減が不可欠となってきました。この課題に対応するため、今年度から、海外の関連会社を含めた全社にグローバル環境マネジメントシステムの導入を進め、全事業サイトでのISO14001の認証取得を目指します。これを通じて、弊社は海外の関連会社を含めたすべての事業所で環境保全活動を一層推進し、環境負荷低減と持続可能な社会づくりのために貢献して行きます。

本報告書を是非ご一読いただき、弊社の環境保全活動についてご理解をいただくとともに、忌憚の無いご意見をいただければ幸いです。

代表取締役社長 大野 龍隆

環境方針

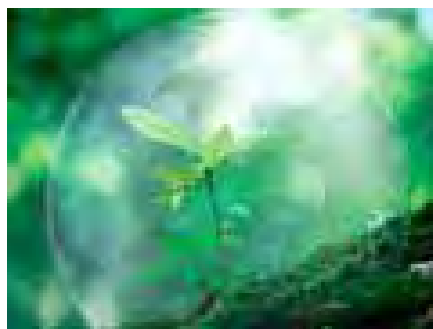
駿河精機は「テクノロジーとエコロジーの共存」をスローガンに関係者への環境教育を行い、環境関連の法規制及び駿河精機が同意するその他の要求事項を遵守します。

以下の5つの項目について自主ガイドラインを設け、環境負荷削減に向けて、一層の環境保全に努めます。

尚、定期的に環境影響評価を実施し、環境目的・目標を定めて環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

環境方針は一般に公開します。

1. 特定化学物質非含有管理と代替化推進
2. 環境汚染の予防
 - 1) 油類・有害物質の漏洩
 - 2) 騒音の敷地境界線からの漏れ
3. 廃棄物のリサイクル率の向上
4. 環境負荷の少ない商品開発
5. 省エネの推進



会社概要

会社名：駿河精機株式会社

本社所在地：

〒424-8566 静岡県静岡市清水区七ツ新屋 549-1

TEL: 054-344-0311 FAX: 054-346-1053

URL:<http://www.suruga-g.co.jp>

資本金：491 百万円

売 上：159.7 億円(2009 年 3 月期)

従業員数：710 名



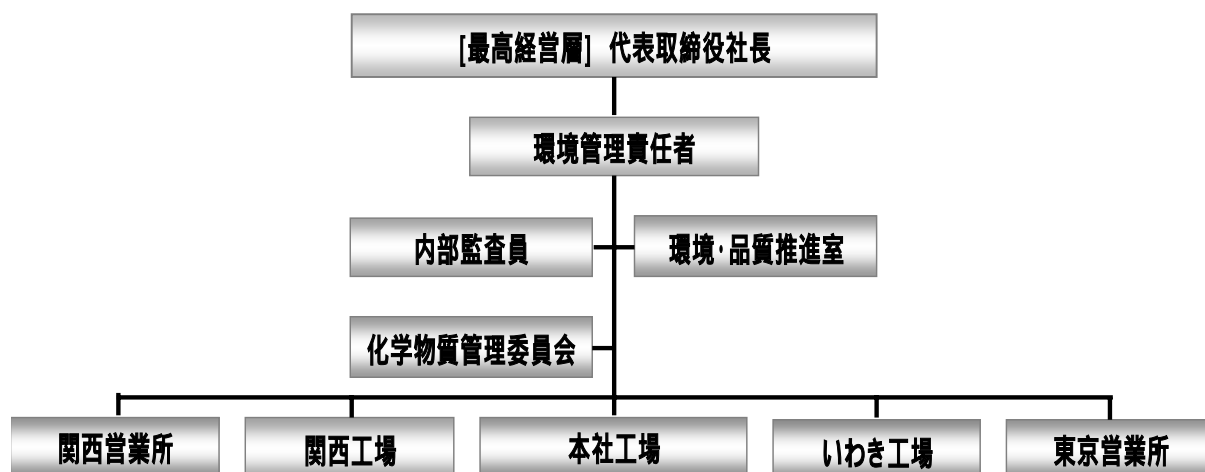
事業概要

駿河精機は、先端の「精密加工技術」をベースに、プレス金型用部品、プラスチック金型部品、FA（ファクトリー・オートメーション）関連部品、光関連機器、精密金型部品を開発、製造しています。国内拠点としては、本社工場（静岡）、関西工場、いわき工場、東京営業所、関西営業所のほか、関連会社として三島精機を置き事業を展開しています。また、海外関連会社としては、現在、ベトナム、アメリカ、韓国、中国、タイ、ポーランドに拠点を構えています。

駿河精機では、国内工場及び営業所全サイトにて ISO14001 を取得しています。

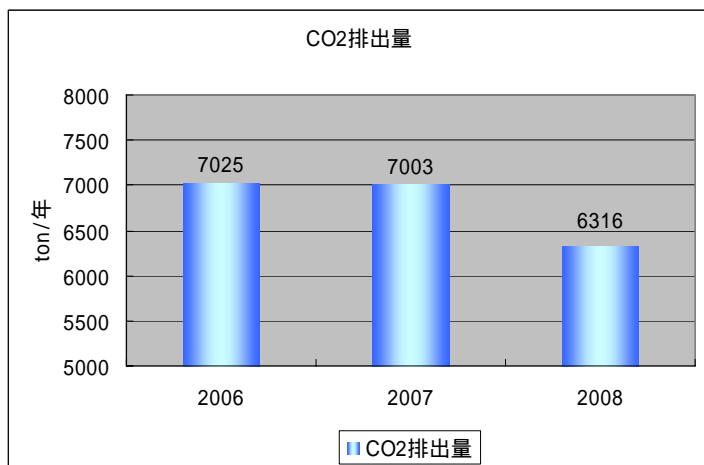


環境活動組織図



環境パフォーマンス

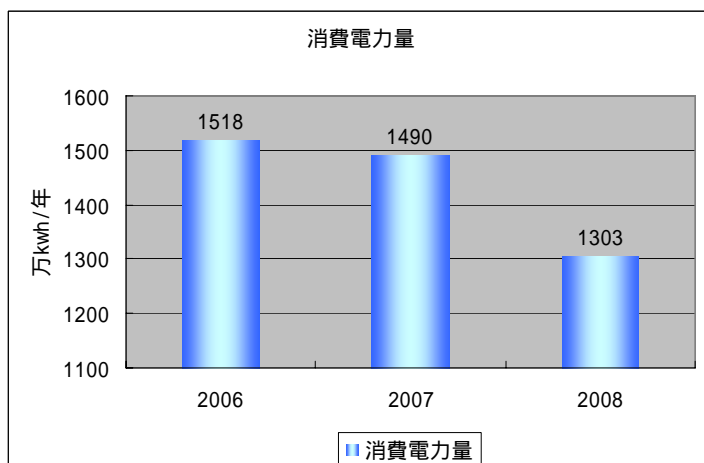
【CO2 排出量】



今年から電気とガス（都市ガス、LPG）の消費量より CO2 排出量の算出を開始いたしました。

2008 年度は、生産が減少したことに伴い CO2 排出量は前年度比で 687 トン減の 6316 トンと大幅に減少いたしました。しかしながら、売上高比排出量は 12.3 トン/億円増の 48.5 トン/億円となり、生産量に比例しにくい空調、照明などにおける省エネ改善が追いつかなかったことが原因と考えられます。

【消費電力量】



2008 年度は CO2 排出量と同様に、消費電力量は前年度比で 187 万 kWh 減の 1303 万 kWh、売上高比電力量で 2.3 万 kWh/億円増の 10 万 kWh/億円となりました。2009 年度は売上高比電力量で前年度比 1%減を目指します。

【廃棄物排出量】

2008 年度は、前年度比で 23.5 トン増の 249.3 トンとなりました。主な原因としては、いわき工場で新たに排出が始まったバレル廃水が約 39 トン発生したことと考えられます。

引き続き、歩留まりの改善などを通じて、排出総量の削減に努めます。

【廃棄物リサイクル率】

2008 年度は、前年度比で 8%ダウンの 52.3%となりました。主な原因は、排出量の増加と同じく大量のバレル廃水が新たに生じたことによります。

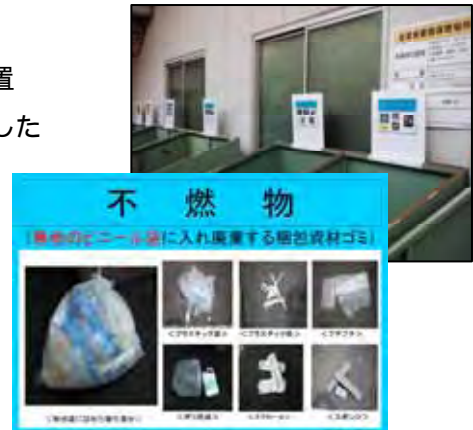
2009 年度は、リサイクル率で前年度比 2%アップを目標に取り組みます。

2008年度の主な環境改善活動

廃棄物分別サンプル写真の掲示（管理部門）

本社地区工場の各廃棄物集積所に分類別の写真付掲示板を設置いたしました。発生し得る廃棄物を把握し、リサイクルに適した分類に細分化して写真で示すことにより、誰にでも、正確に分別できるよう工夫しました。

これにより、分別ミスによる混入が減少してきました。今後はさらに分類を工夫し、廃棄物のリサイクル率アップに繋げていきます。



切削くず保管箱の改善（管理部門）

本社第二工場にある廃棄物置場の切削屑保管箱から流出する油が、排水溝に流れ込み、油水分離槽の処理能力を超えて外部へ流出する危険性がありました。

対策として保管箱に雨よけの蓋、及び底部に油の受け皿を設置いたしました。これにより、箱内に溜まった油は、定期的にバルブを開いて抜き取り、廃油として処理することができるようになりました。また、同時に廃棄物置場横の油水分離槽と排水枡を毎週点検し、溜まった油の吸取りを開始いたしました。

今回の改善は、2008年のISO14001定期審査で受けた、審査員からの指摘が契機となりました。

今後こうした第三者からのご意見を傾聴し、改善のチャンスとしていきたいと考えます。



廃棄物等保管倉庫の設置（関西工場）

関西工場では屋外に4つの倉庫を新たに設置いたしました。

この4つの倉庫を、使用前の油置場、廃油・汚泥置場、鉄くず・廃ウエス置場、混合廃棄物・ダンボール置場と、明確に分類し、各保管庫内では収納物を明示した空ドラム缶でさらに細分化することにより、廃棄物の分別収集を効率よく徹底できるようになりました。また、廃油など液体の保管庫には、万が一に廃油等を庫内で漏洩させてしまった際に庫外へ流出させないために、奥へ向けて傾斜をつけた構造にするなど工夫しました。



関西工場は2008年に2つの製造ラインが増設され、今後も生産量の増加に伴う廃棄物の排出量増加が見込まれます。効率の高い生産により廃棄物量を削減することはもとより、分別を徹底していくことでリサイクル率の向上に努めていきます。

グリストラップの設置(関西工場)

2008年6月に生産室として拡張したエリアの手洗い場所にグリストラップを設置いたしました。この手洗い場では、従業員が手に付いた加工油を洗い流すため、油分を多く含んだ水を排水することになります。

そこで、配水管の途中にグリストラップ(油水分離器)を設け排水を水と油に分離し、水だけが下水へ流れるようにしました。関西工場では、このほか2箇所にグリストラップを設置しており、毎月清掃を行うことで、きれいな排水を流せるよう管理しています。



土壌環境改善(三島精機)

三島精機では、長年の間、金属材料の洗浄用溶剤としてトリクロロエチレン(TCE)を使ってきました。TCEは、化学的に安定で安価に手に入る物質ですが、一方では、毒性が強く土壌汚染対策法の有害物質に指定されています。三島精機ではTCEによる土壌汚染を起こしていないか確認するための自主調査を2008年1月に着手しました。

結果、過去に使用していた場所の土壌表層で基準を超えるTCEが検出されました。幸い、地下水への溶出はなく、敷地外へ拡大している恐れはありませんでした。

行政へ相談した後、汚染土壌の掘削除去による浄化を2008年6月に完了いたしました。

同時に、代替溶剤に切り替えTCEの使用を全廃いたしました。



その他以下の活動にも取り組んでいます。

- ・ エアコン、電灯の消費電力削減(全社)
- ・ 特定化学物質の代替化推進(全社)
- ・ 不良廃棄物の削減(全社)
- ・ 防災訓練の実施(全社)
- ・ 緊急時(油等の流出事故)対応訓練の実施(全工場)
- ・ 5Sパトロール(本社地区工場)
- ・ 構外美化活動への積極的参加(いわき事業所)



防災訓練の様子

冊子での発行の中止について

第4版となる「環境報告書2009」より、紙の冊子での環境報告書の発行を中止させていただき、弊社ホームページ上のみでの公開といたします。インターネット利用の普及、また、紙資源の消費削減を考慮した結果の対応です。ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

対象範囲：駿河精機(株) 本社、各営業所及び工場
対象期間：2008年4月1日～2009年3月31日
前回発行：2008年7月 次回発行予定：2010年7月

発行日：2009年7月1日

問い合わせ先
駿河精機株式会社 環境・品質推進室
〒424-8566 静岡県静岡市清水区七ツ新屋 549-1
TEL:054-344-0323 FAX:054-346-1053
E-MAIL: eqm@suruga-g.co.jp